

第9回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー - 会議
(令和2年4月24日開催予定(延期:資料送付にて確認))

主な意見、指摘事項と対応について

1. 環境対策の現況報告

意見・指摘事項	対応
<p><東日本台風にもなう大規模出水後調査></p> <p>・「この強い流れにより鋼矢板前面は洗堀されたが、背面は大きく洗堀していない。よって、鋼矢板は干潟保護の役割を果たしていたと考えられる。」とあるが、前面は洗堀されているのだから、鋼矢板は干潟保護の観点からはプラスとマイナスの効果をもたらしたと解釈するのが妥当ではないか。</p> <p>プラスの面だけを強調すべきではないと思います。</p> <p>・「この強い流れにより鋼矢板前面は洗堀されたが、背面は大きく洗堀していない。よって、鋼矢板は干潟保護の役割を果たしていたと考えられる。」という結論には、納得いきません。</p> <p>流れを横断するように設置された鋼矢板は、強度が強いので洗堀を防いだように見えますが、むしろその周辺、鋼矢板の端部から強く洗掘されたようにも見えます。</p>	<p>結果として、鋼矢板は干潟の緩衝帯部分の保護に寄与したと考えますが、ご指摘の様に、鋼矢板の設置が出水時の流れを障害し、下流側の干潟形状の変化の要因とも考えられます。</p> <p>「この強い流れにより鋼矢板や橋脚周辺に部分的な深い抉れが発生したが、全体的な汀線ラインは、0.6Kp付近を除いて、ある程度維持されている。今後は、鋼矢板周辺の経時的な地形変化をモニタリングにより確認する予定である。」というコメントに修正しました。</p>

2. 令和元年度冬季定期環境モニタリング調査実施状況報告

意見・指摘事項	対応
<p><水質・水象></p> <p>・連続観測の溶存酸素量(DO)観測結果と併せて降水量を併記しているが、これは、どこで測定された降水量か明記願いたい。</p> <p>降水量との比較は、溶存酸素量(DO)よりも塩分と並べた方が比較しやすいと思います。</p>	<p>降雨量の計測結果は気象庁の東京国際空港(羽田)の観測結果です。報告書に明記するようにします。</p> <p>また、塩分測定結果にも降水量を併記するように修正します。</p>
<p><水質・水象></p> <p>大変残念ながら、塩分の多くのデータが、信頼性に欠ける値を示す結果になっています。計測ミスと思います。</p>	<p>ご指摘の通り計測機器の調子が良くなく、信頼性に欠けるデータ値であると考えます。</p> <p>今回の計測器を新調して設置しましたのでご指摘内容を踏まえ、データ取得に詰めてまいります。</p>

<p>< 植物 > ・特になし</p>	
<p>< 鳥類 > 「調査日には中州が水面上にはほとんど出ていなかった状態であることから」とあるが、他年の冬季あるいは他の調査時期には中州が水面上に出ていたかを確認ください。もし中州が水面上にはほとんど出ていなかった状態があった場合は、この解釈以外の別の要因も考える必要があります。</p>	<p>干潟での飛翔行動を把握するため、調査は毎回大潮時に行っています。 しかし、確認したところ冬は干潮時でも干潟が水面にでることはあまりありませんでした。 よって、中州の大部分が削られたため、調査日にはある程度水深のある水面が広範囲に広がった状態であり、その分水面で休息する個体が多く確認されたことが影響していると推測した文章に修正しました。</p>
<p>< 鳥類 > ・鳥類ですが、多くの類で工事区の通過経路が2つの橋脚部間の集中化が見られ、カモメ類では飛行高度の高度化が起こっているようです。橋の構造と関係して、高い構造物を避けたり、また、橋の上を通過するため高度を上げているのかもしれませんが。ご検討お願いします。</p>	<p>昨年夏に両橋脚の柱頭部およびP4橋脚側鋼桁（羽田側）の架設を行っており、鳥類への影響があると思われます。資料にその考察を加えました。</p>
<p>< 魚類・底生生物 > ・特になし</p>	

以上

令和元年度環境モニタリング調査報告書

主な意見、指摘事項と対応について

1. 水質

意見・指摘事項	対応
水質の連続観測で、4月末の表層貧酸素化を植物プランクトンの付着呼吸が原因としていますが、それを示す根拠が示されていません。観察事実はありますか。小潮時の貧酸素化ですが、潮汐との対応があり満潮時に低下しています。工事の影響とは言えませんが、多摩川河口での特異的な現象かも知れません。植物プランクトンの付着呼吸だけに原因を決めずに、今後の注視した方がいいと思います。	小潮時の潮位変動が少ない時に、同様の計測結果が見られます。ただし、4月末の計測結果のみ下層より上層の方が溶存酸素量は少なくなっています。 この期間は連休中であり、記載の様に計測器の掃除が行き届かず、生物等が付着したと考えています。 今後、測定機器のメンテナンスに配慮して測定を継続していきます。

2. 鳥類

意見・指摘事項	対応
鳥類ですが、多くの類で工事区の通過経路が2つの橋脚部間の集中化が見られ、カモメ類では飛行高度の高度化が起きているようです。橋の構造と関係して、高い構造物を避けたり、また、橋の上を通過するため高度を上げているのかもしれませんが。ご検討をお願いします。	昨年夏に両橋脚の柱頭部およびP4橋脚側鋼桁（羽田側）の架設を行っており、鳥類への影響があると思われます。 令和2年度は河川内の桁架設が概ね完了することから、桁架設による鳥類への影響について注視していきます。

以上